

平成18年度京都環境賞受賞者について

～大賞は大宮保育園, 特別賞を5団体が受賞～

京都環境賞は, 市民や事業者の皆様の自主的な環境保全活動を更に推進していくため, 先進的・斬新な手法等で環境保全のための活動に実際に取り組んでおられる方を表彰するものです。

受賞者の選定に当たっては, 学識経験者, 市民団体及び事業者団体の代表者等の方々で構成される「京都環境賞, チャレンジ・エコライフ・コンテスト選考委員会」を開催し, 専門的な見地から様々な御意見をいただきました。

同委員会からの御意見を踏まえ, この度, 平成18年度京都環境賞及び特別賞の受賞者を下記のとおり決定しましたので, お知らせします。

なお, 表彰式は2月17日に国立京都国際会館において開催する「気候変動に関する世界市長・首長協議会」京都会議の同時開催イベント「環・響コンサート」において執り行います。

記

1 受賞者	京都環境賞	社会福祉法人 京都社会福祉協会 大宮保育園
	特別賞(市民団体賞)	ふるしき研究会
	特別賞(市民団体賞)	NPO法人伏水サポート・ネットワーク
	特別賞(企業賞)	株式会社エコロ21
	特別賞(企業賞)	ホテルグランヴィア京都 (株式会社ジェイアール西日本ホテル開発)
	特別賞(環境教育賞)	京都市立朱雀第四小学校

2 応募総数 29件(内訳:個人2件/市民団体10件/企業17件)

3 選定理由

京都環境賞

受賞者: 社会福祉法人 京都社会福祉協会 大宮保育園

代表者: 園長 北尾 育子(きたお いくこ)

所在地: 北区大宮中ノ社町 35 番地

テーマ: 大宮おひさま発電所づくりから始まった“もったいない”

選定理由：

同園では、「大宮おひさま発電所（太陽光発電）」や雨水タンクの設置利用、園庭での野菜栽培を通じて、環境学習を積極的に推進している。また、バザーや夏祭りの開催に当たっては、ごみの減量をテーマとし、「マイお箸・マイ容器の持参」や「リユース食器の使用」、「リデュースを意識した飲食コーナー（食器にアイスのコーンカップなどを使用）の設置」に取り組んだ。これらは、企画段階から保護者を交えて創意工夫がなされ、先進的かつ継続性のあるものが多く、また、家庭における省エネ、省資源の取組の推進にも寄与するものと認められる。

同園のこれらの取組は、京都環境賞の趣旨に合致し、かつ、秀でており、将来を担う子ども達に対する環境教育の推進や地域住民への環境保全の取組の推進に大きく寄与していることから、今回、京都環境賞として選定した。

「特別賞」（市民団体賞2件）

受賞者：ふるしき研究会

代表者：森田 知都子（もりた ちずこ）

所在地：北区紫野宮東町 10-3-203

テーマ：日本古来のふるしきによる地球環境保全活動

選定理由：

同会では、日本の伝統文化である「ふるしき」をもとに、レジ袋削減など地球温暖化対策に資するごみ減量対策に永年にわたって取り組んでいることから、その先進性及び継続性を高く評価した。また、プラスチック製レジ袋の組成調査やスーパー等の買物客を対象としたレジ袋に関する意識調査を実施し、その結果をもとに、小冊子『レジ袋いりませんハンドブック』を作成し、全国の自治体や企業、市民に約3万部を配布し、環境教育、普及啓発に努めていることから、その普及性についても高く評価した。

受賞者：NPO 法人 伏水サポート・ネットワーク

代表者：吉村 睦子（よしむら むつこ）

所在地：伏見区醍醐西大路町1番地

テーマ：醍醐地域で展開する持続可能なコミュニティづくり

選定理由：

同ネットワークは、地域における子育てや高齢者の生活を支援する中で、環境家計簿の普及等を通じ、家庭において環境を学ぶ機会を提供し、併せて醍醐の自然保護のための竹をテーマにした連続ワークショップを開催することにより、地域住民の方々に環境意識の定着を図った。また、醍醐コミュニティバスの実現に貢献した点については、地域の公共交通機関の利用促進による地球温暖化防止につながり、その成果面及び普及面についても高く評価した。

「特別賞」（企業賞2件）

受賞者：株式会社エコロ 21

代表者：代表取締役 五十嵐 道和（いがらし みちかず）

所在地：中京区西ノ京小倉町 3-9

テーマ：エコロタクシー

選定理由：

同社では、地球温暖化対策をはじめとした環境保全の取組として、タクシー全車にアイドリング・ストップ装置や自転車搬送キャリアを装着している。また、風力発電機付き行灯も装着し、発電機からの電力を携帯電話の充電サービスと行灯の電源として活用している。

これらの取組はタクシー業界の中では非常に先進的であり、特に自転車搬送キャリアは地域の自転車利用促進に貢献している。また、利用料金の一部で、自然エネルギーの普及促進に貢献した証明書として発行される「グリーン電力証書」を購入するなど、業務以外の環境保全対策に取り組んでいる点からも同社の環境意識は非常に高いことが伺えた。

受賞者：ホテルグランヴィア京都（株式会社ジェイアール西日本ホテル開発）

代表者：代表取締役社長 木部 義人（きべ よしと）

所在地：下京区烏丸通塩小路下る東塩小路町 901 番地 京都駅ビル内

テーマ：ホテルにおける環境マネジメントへの取組

選定理由：

同ホテルは平成17年3月に「KES・ステップ2」を宿泊施設として初めて認証取得し、「節水・省エネルギー化」「廃棄物の削減」等の5分野のテーマで環境改善活動を展開し、特に、エネルギー消費量や可燃ごみの削減等、事業活動に伴うCO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいる。使用エネルギーの削減が困難な傾向にあるサービス業において、ごみ減量などの様々な項目において、環境保全に取り組んでいることについて高く評価した。取組の中には、同ホテルから発生する厨芥類を堆肥化し、これを用いて栽培したハーブ類をレストランで使用する「食の循環リサイクル」など、ユニークな取組もある。さらに、これらの取組をグループホテルで展開するなど、普及性、発展性についても高く評価した。

「特別賞」（環境教育賞）

受賞者：京都市立朱雀第四小学校

代表者：校長 河村 広子（かわむら ひろこ）

所在地：中京区西ノ京笠殿町 164

テーマ：自然から生命の尊さを学ぶ環境教育

～子どもが身近な自然に対して主体的に働きかけ、感じ・考え・活動する～

選定理由：

同校では、エネルギー・資源の節約、ごみの減量など学校教育の中で創意工夫を凝らし、多彩な環境教育を実践している。その中で、特に、手作りの校内のビオトープ「あかしの森」や「動物ランド」を通じて、自然や生き物と関わりの中から生命尊重に係る教育を行い、自然との共生や生命の尊さを、子供たちの考え・行動に繋げている点を高く評価した。また、家庭・地域との協働活動を充実させるために同校が設立した、児童や地域住民等により構成される清掃活動団体である「紙屋川ゴミ0隊」は年々参加者が増え、毎回約150名の参加があることから普及性も伺えた。

(参考)

表彰式について

「気候変動に関する世界市長・首長協議会」京都会議の同時開催イベント「環・響コンサート」において表彰式を行います。

日 時：平成19年2月17日（土）午後1時10分から40分まで

場 所：国立京都国際会館メインホール（京都市左京区宝ヶ池）

■京都環境賞とチャレンジ・エコライフ・コンテストの違いについて

京都環境賞は、市民や事業者の皆様が環境保全のために、これまで活動された実績を顕彰することを目的として、平成15年度に創設したものであり、チャレンジ・エコライフ・コンテストは家庭や職場における地球温暖化防止に役立つユニークな取組を提案かつ実践していただき、その発想の豊かさなどを顕彰するため、平成17年度に創設したものです。